

東京都武蔵野市より感謝状をいただきました

医療法人啓仁会



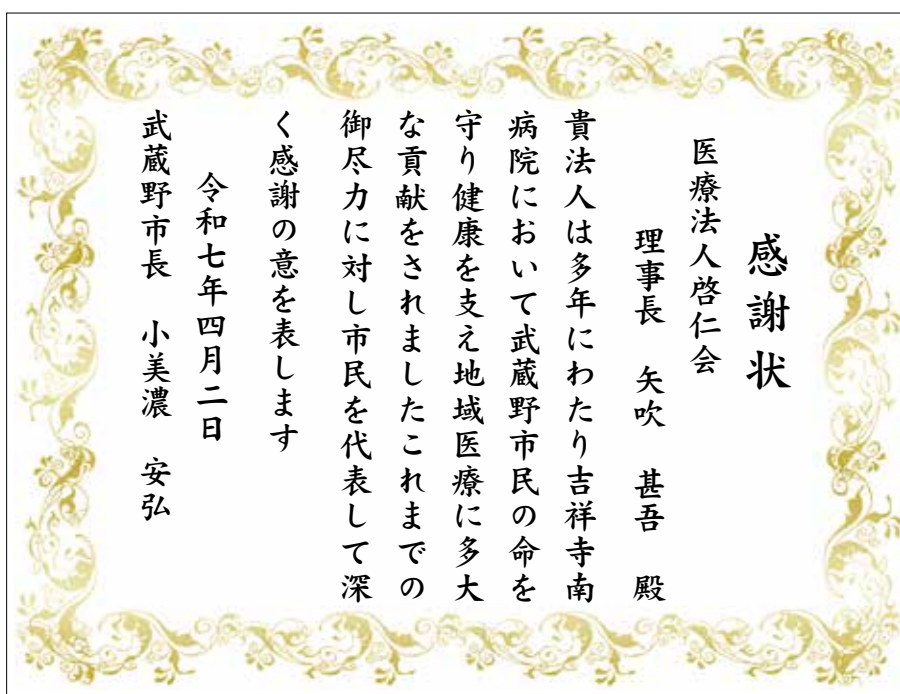
感謝状贈呈（左から矢吹副理事長・矢吹理事長・小美濃市長）

令和 7 年 4 月 2 日、医療法人啓仁会は東京都武蔵野市の^{おみのやすひろ}小美濃安弘市長より、吉祥寺南病院（昨年 10 月より休止中）で長年に亘って地域医療に貢献してきたとして感謝状をいただきました。また同日開催の贈呈式で、吉祥寺南病院の許可病床 125 床を社会医療法人社団東京巨樹の会（東京都品川区）に引き継ぐ見通しになったことについて、市長より「地域医療の継続・発展に向けご尽力をいただき、心より感謝を申し上げたい」と挨拶がありました。矢吹理事長は「建設費の高騰や物価上昇の影響もあり継承先の選定は難航してきた。地域に必要な病院の役割を次の医療法人にしっかりと引き継げるよう最後まで努力していきたい」とお礼を述べました。

吉祥寺南病院は平成 20 年から前身の医療法人を吸収合併したことで啓仁会が運営してきました。東京都の二次救急指定病院及び武蔵野市の災害拠点連携病院としての機能を果たすなど、以後約 17 年間に亘り、東京都武蔵野市・吉祥寺地区及び東京都北多摩南部医

療圏における地域医療の一端を担ってきました。ただ近年になって、建物の老朽化、設備の経年劣化が進み、安全で快適な療養環境を提供することが難しくなったと判断し、昨年 10 月 1 日から診療を休止しました。

許可病床を引き受ける東京巨樹の会は、吉祥寺南病院の西側駐車場を含めた敷地に、急性期医療、回復期医療、健診医療を総合的に行うと共に、二次救急指定や災害拠点連携も担う新病院を建設する方針です。将来東京都から病床の新規割当を受けるなどして病床規模を拡充する計画をしています。啓仁会と 3 月に諸手続きを終え、現在は啓仁会が東京都や埼玉県に許可病床の継



感謝状の内容

承を巡る手続きを申請、今秋の認可取得を目指しています。武蔵野市の^{おみのやすひろ}小美濃市長は行政との交渉や東京巨樹の会と近隣住民の調整に関し「市としてできる限りの支援をしたい」とのお言葉をいただきました。

看護におけるリフレクション ～より良い看護の提供を目指して～

医療法人啓仁会 豊川さくら病院（愛知県豊川市） 看護部 2 階病棟

みなさん、こんにちは！豊川さくら病院 2 階病棟です。

当病棟では、昨年度の病棟目標の一つに、『看護の振り返りをしよう！～リフレクションを通し、看護の質を高めよう～』を掲げ、チームリーダー会主催で2ヶ月おきに「わくわく☆看護☆実践報告会」を開催しました。わくわく・・・？何それ？と思われる方がほとんどかと思われます。人は経験しただけでは学習になりません。日々看護を提供する中で自分を見つめ直す、看護の質向上を図るために、看護行為や患者さんとの対話を振り返ってみる、それにより経験した事への気づきや行動の意味について考えることで学びとなります。これがリフレクションです。

このリフレクションは1人でも行うことが可能ですが、他者からの問いかけや他者が語る経験を通すことでそれまで気付かなかった自分の考えや患者さんの行動、気持ちに気付く事ができます。この気づきが新たな学びや変化につながると言われています。

2 階病棟ではこのリフレクションを「わくわく☆看護☆実践報告会」通称「わく看」と呼び、ポスターを掲示、合言葉「ええやん！」を決めイベント化することで、楽しさを演出、

参加のハードルを低くし様々な職種が意見交換できるようにしています。

この「わく看」では身体拘束を解除できた症例も発表されています。当病棟は点滴管理、認知症の患者さんが多い病棟ということもあり、安全と治療を優先し、止むを得ず身体拘束を行うこともありましたが、患者さんにとっての安心・安全・安楽とは何かを考えると本当にこれでいいのか・・・とジレンマを抱えて悩んでいたのです。

そこで身体拘束が必要な患者さんの行動の背景を考え、何を思い訴えているのかを受け止め理解する、その問題を解決するにはどうしたらいいのかを話し合い、ケアを実践しました。患者さんが寝たきりにならないよう生活リズムを整え、私たちも近くで見守れるよう、日中はなるべく車椅子で過ごしてもらいました。またミトン手袋の代わりに手指の自由がきくマフを使用するなど新たな手法も取り入れ、スタッフ一丸となり諦めずに工夫を繰り返し、身体拘束解除につなげることができました。このリフレクションを通して身体拘束解除への意識が高まり、どうしたら安心安全に過ごしていただけるか、患者さんの為にケアを考えチャレンジする姿をよく見ます。

患者さんとの日々の関わりも、より愛のある素敵なものになっていると思います。

最初は手探りで始めた「わく看」ですが、現在までに計画どおり5例実施できています。

「わく看」のテーマは違っても、スタッフひとりひとりの考えや思いに触れ感心したり一緒に考えたり、自分も振り返る機会になっています。「あ



実践報告会資料

の時そんな風に思ってたんだ～。」や「患者さんの事を考えて工夫して、いい看護してるな～。私もやってみよう。」と開催の度に勉強させてもらっています。

発表後にスタッフから「最初は難しそうで嫌だったけど、発表できてよかった。自分のやってきた看護は良かったのかわからなかったけど、みんなから意見をもらいとても自信がもてた。」ときらきらした笑顔で言われたときは、チームリーダーとしてとても嬉しく、なんだか誇らしくも感じました。看護のリフレクションは実際に看護の質を高めるだけでなく、人間性や思考力の向上など、一人の人間として成長できる良い機会だと思います。

まだ新しい取り組みではありますが、リハビリに励む患者さん、それを支える御家族に、「豊川さくら病院に入院して良かった。」と言って頂けるように、今後も「わく看」を継続していきたいと思っています。



実践報告会の様子

すし職人による実演にぎり寿司

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 所沢ロイヤルの丘（埼玉県所沢市） 管理栄養士 長井 友香

2月8日にぎり寿司イベントが開催されました。

当施設に給食委託会社からすし職人の方をお招きして、全館のご利用者様の昼食時ににぎり寿司の実演をしていただきました。すし

職人の方がご利用者様の近くまで寄り間近で握ったお寿司をご覧いただく場面や、職人の方が手際良くにぎり寿司を握る様子をご覧になられた後、お食事を召し上がる様子はとても表情豊かで大盛況で終えられました。

お寿司や生ものが苦手な方や通常食を食べるのが難しい方向けの選べる昼食を提供していただきました。(写真の「にぎり寿司」「ネギトロ丼」の他、「天ぷら」も)

昨年度は、にぎり寿司のほかにも、手打ちうどんやそばイベントなども行われ、日



にぎり寿司



ねぎとろ丼



すし職人実演

連続した活動に着目した実践的な IADL 訓練の取り組みについて

医療法人啓仁会 豊川さくら病院（愛知県豊川市） リハビリテーション部 作業療法士 副主任 松下 麻奈美

手段的日常生活動作 (Instrumental Activities of Daily Living 以下、IADL) とは、買い物、調理、掃除、洗濯などといった「応用的な動作」を指し、当院では令和 6 年 10 月より全 92 床が回復期リハビリテーション病棟となり、IADL が必要な患者様が增加することが予想されます。

我々セラピストは、退院後の生活を見据えた目標の設定やリハビリプログラムの立案をする際に、患者様から希望を聴取しますが、病前の生活様式や役割などによって、様々な内容が聞かれます。「食事やトイレができるようになりたい」「歩けるようになりたい」などの基本的な動作の希望や、「調理、買い物を行いたい」といった IADL の希望もよく聞かれます。

IADL の訓練では、複数の IADL 訓練を実施する際に別日程で分けて行っている施設もあると思います。退院後の生活を見据えた時に、単に買い物に行く、調理を行うといった個々の活動ではなく、常に活動が連続している状態が生活であり、時には時間を気にしながら活動を行うこともあります。IADL の在り方について、患者様主体の生活

を見据えると、1 日の中で活動が連続していると捉えることが必要であり、より実践的な訓練も重要と考えます。

患者様の事例を紹介します。80 代の女性で、変形性股関節症のため左人工股関節置換術を施行され、下肢の筋力低下、体力の低下を認めました。術前の IADL は自立しており、退院後は買い物、調理がしたいと希望がありました。

入院して 1 ヶ月経過後に、日常生活の動作が安定し、運動機能、認知機能、体力、心理（意欲・自信等）などの生活する上での評価や、模擬動作訓練、動作指導を行った上で、買い物訓練、調理訓練を行いました。

まずは、患者様自身で献立を考えるとところから始まり、食材リストを作成し、歩く速度に対して、スーパーまでの往復時間や、料理の完成にかかる時間を予測し計画しました。店内や復路では購入品を持って移動し、買った食材で調理をし、食器をテーブルまで運び、使用した調理器具を洗うまでの一連の動作を実施しました。また、実際の生活時間を想定し、料理の完成が昼食の時間帯になるように工夫しました。

患者様の声として、「思っていた以上に疲れることが分かった。退院したら休憩を挟みながら行っね。退院前に体験できて良かった」と感想をいただきました。

今後においても退院後に患者様が安心して生活してもらえるよう、患者様に合わせた実践的なリハビリテーションを提供できるように尽力していきたいと思います。



親子丼を作ってます！



これから買い物をします！

スケジュール表	
10:00	準備：1単位(20分) 食事メニューを考える 買い物リストを作成する お金の準備をする
10:20	買い物訓練：2単位(40分)
11:00	調理訓練：3単位(60分)
12:00	食事

スケジュール表

楽しい、美味しい～屋台レク！

社会福祉法人栄光会 特別養護老人ホームさいたまロイヤルの園（埼玉県さいたま市） 介護職 渋谷 麻希

皆さんこんにちは。寒い日が続いていますね。寒くて外に出たくないと思う今日この頃です。特別養護老人ホームさいたまロイヤルの園では寒さを吹き飛ばす屋台レクを 12 月に行いました。ご入居者様に屋台で食べたい物をお聞きし、看板作り、お品書き、金券を準備しました。屋台レク 2 日前からエレベーターホール等装飾を行い屋台の雰囲気味わっていただきました。当日、エレベーターホールにテーブルを設置し、手作りあんみつ、焼きそば、たこ焼き、お好み焼きなどを職員総出で作っていると、「よい匂いがするね」とニコニコしながら様子を見に来られる

方がたくさんいらっしゃいました。お好み焼きなどを 1 個ずつパックに詰めテーブルに並べました。ユニット入り口にご入居者様が集まり始めた為、職員の「いらっしゃいませ。開店の時間です」の掛け声と手拍子にお品書きを持ったご入居者が屋台に集まって来られました。食べたい物を金券と交換するシステムにし、食べ過ぎないように配慮しました。「美味しいね」「最高だよ」「これも食べたいんだよ」など楽しまれている声が聞こえてきました。ペースト食の方には、あんみつやアイスを準備し、喜ばれていました。事務所の職員や看護職員に手伝ってもらい、屋台レクは盛

り上がり大成功しました。ご入居者様の笑顔と喜んでいる姿や「また、屋台レクをやってよ」とリクエストをいただいたので、次回は、射的などのゲームを取り入れて、よりグレードアップした屋台レクを行いたいと思います。



さいたま名物屋台レクの始まり！

特別養護老人ホームさやまロイヤルの園が開設しました！

社会福祉法人栄光会 特別養護老人ホームさやまロイヤルの園（埼玉県狭山市） 施設長 渡壁 宏行



施設 外観

4月1日に埼玉県狭山市北入曽に、法人6番目の特別養護老人ホーム「さやまロイヤルの園」を開設いたしました。1階に30床の従来型、2・3階に70床のユニット型と、10床のショートステイが入る、複合型の施設になります。静岡茶、宇治茶と並んで日本三大茶とされている狭山茶の茶畑にかこまれた施設は、建物全体はお茶をイメージしたグリーンを基調としたデザインで、近隣の幹線道路や最寄り駅の西武新宿線入曽駅からも施設をみることができるため、建築が進むにつれ、多くのお問い合わせをいただいております。

3月下旬に行いました内覧会では、近隣の介護、福祉、医療関係の方々をはじめ、地域にお住まいの多くの方々に、足を運んでいただきました。当施設が狭山市内の中心部や、住宅街から近いこともあり、関心と期待の高さを感じました。

開設にあたり、介護職員等の確保は難航しましたが、なんとか開設しご入居者様をお受けいただけるだけの人材を確保することができました。採用にあたって、職員の働く環境にも配慮しました。リフレッシュできるように明るくカフェをイメージした職員食堂やリラックスできる個室の休憩室など、職員からも選ばれる施設を目指しました。また、介護の質の向上とスタッフの負担軽減を目指し、セン

サーとカメラによる見守りシステムを全室に導入。日々のデータの蓄積により、ご入居者様の生活リズムや体調変化の把握が可能となり、きめ細やかな介護を行なえることも期待されます。ICTを活用し、ご入居者様のより良い日常生活に繋げていきたいと思ひます。

ご入居者様の事を1番に考え、安心・安全

でその人らしい暮らしを提供するとともに、地域の介護の不安を解消できるよう、交流を深め、地域課題にも取り組んでいきたいと考えております。地域に必要とされ、信頼される施設を目指し、職員一丸となって前進していきたいと思ひます。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



施設 正面玄関